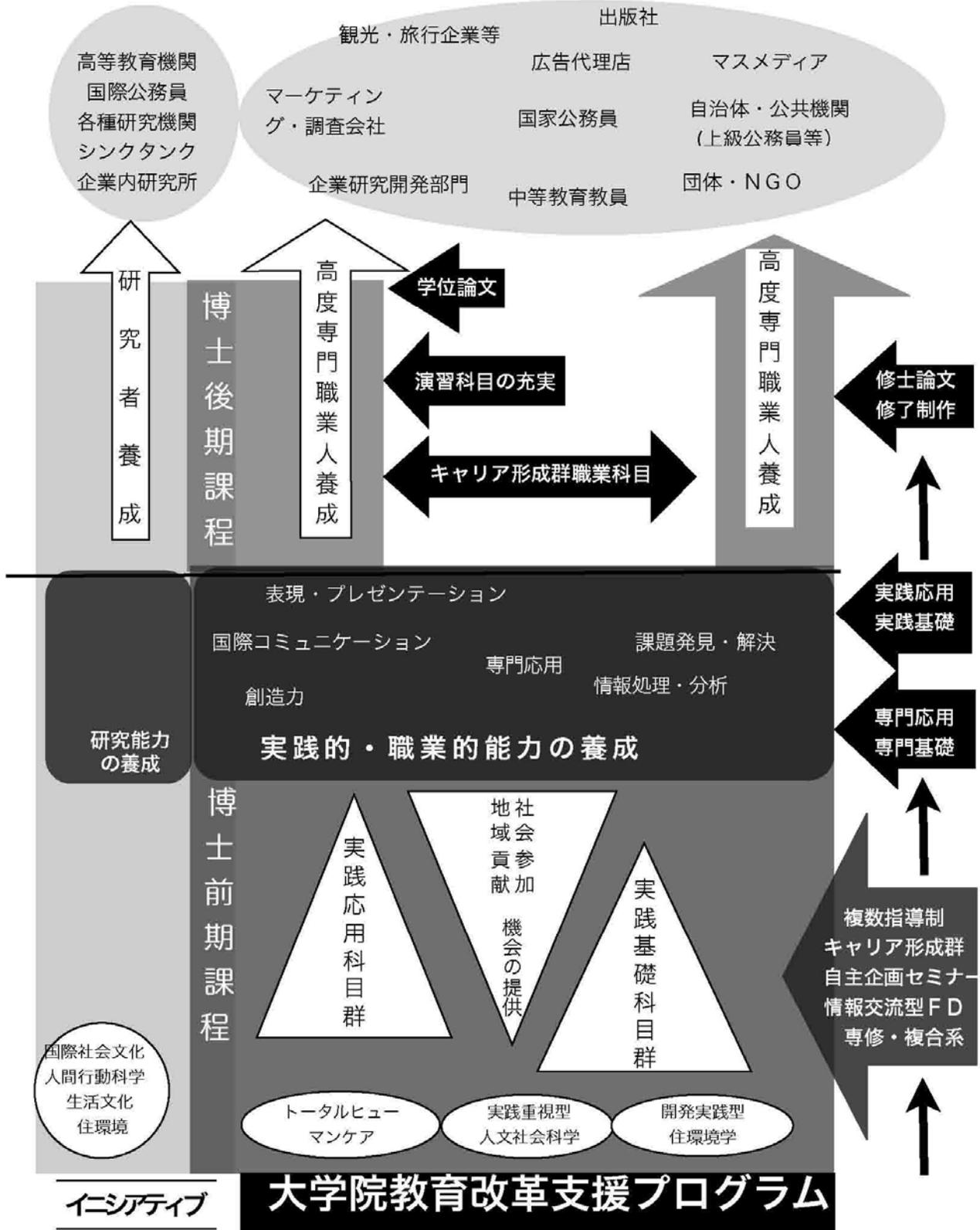


## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	奈良女子大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	女性の高度な職業能力を開発する実践的教育		
主たる研究科・専攻名	人間文化研究科国際社会文化学専攻、社会生活環境学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 出田 和久		
<p><b>[教育プログラムの概要]</b></p> <p>【目的】 人間文化研究科は、研究教育の学際化・高度化・個性化を通じて、男女共同参画社会をリードする女性研究者および女性高度専門職業人を育成し、社会に貢献することをめざしている。このプログラムでは、後者の高度専門職業人の養成を念頭に、主として博士前期課程の教育の実質化を図る。</p> <p>【高度専門職業人養成】 本学は大学院学生の比率が高いという特色を持つ。今回応募する5専攻が関わって平成17年度に採択された「魅力ある大学院」イニシアティブ事業は、「女性研究者の養成」を目的としていた。ところが、前期課程4専攻の定員60名に対して、対応する博士後期課程である社会生活環境学の定員は15名であり、多くの学生が前期課程修了後に高度専門職業人として社会に出ると想定されており、実際の進路もそうになっている。今回、高度専門職業人をめざす多数の学生を対象とするプログラムを実施することで、上記5専攻はバランスの良い教育・研究を展開できる。</p> <p>【プログラムの特徴】 今回の教育プログラムでは、特に社会・文化・人間・環境・生活に関する専門教育研究を実践するなかで、文系と理系の両分野を統合しながら、実習・実践的な側面を強化する。具体的には、実践的課題をになう科目群として「<b>実践基礎</b>」「<b>実践応用</b>」科目群を展開し、調査やフィールドワークを基礎に<b>情報処理・分析や制作、企画・マネジメント、表現・プレゼンテーション等の能力</b>、およびそれらを発信する<b>コミュニケーション能力</b>などを養成する。そのため、第一に、高度な専門的知識を提供する現在の<b>専門基礎、専門応用</b>の2つの科目群について各々の授業の改善を図る。第二に限定された課題や能力に関わる、比較的短期で展開する<b>実践基礎</b>科目群を新設し、技術・技能の開発・伝達をめざす。たとえば、古文書の読解能力を高める、文化財のAV機器による撮影・編集・記録の能力を高める、高齢者のQOLを高める住居設計のノウハウを得る、等の授業が考えられる。この授業は、専任教員のみでなく、その指導のもとに、修了者や上級学年の学生によるTA、社会人などを補助的な講師として招へいして展開することも考慮されている。第三に、従来の演習を強化して転用あるいは新設する<b>実践応用科目群</b>を作り、1年生の後半から2年生にかけての時期を中心に密度の濃い実践的学習を行う。この科目群には、現地調査やフィールドワーク、制作実習など、座学ではない実践的な教育を行う。たとえば、高校教科書の記載を批判的に検討し、現代的教育ニーズに応えるテキストの記述をめざす「<b>文化史総合演習</b>」、あるいは奈良地域の文化資源の記録と紹介を各種メディアによって行い、発信することをめざす「<b>地域・文化資源コンテンツ制作実習</b>」、ヒトの身体や心の機能をトータルにとらえ評価する力を養う「<b>人体機能計測実習</b>」、さらに都市・集落・住居の環境を総合的に解析する「<b>フィールドサーベイ</b>」、それに基づいて実践的な計画・提案を行う「<b>環境プランニング演習</b>」、などが考えられる。さらに、これらの能力は、自主的な研究会・セミナーや本学の地域貢献事業、たとえば地域女性リーダー育成事業などの企画と運営に参加する機会を設けることによって、生きた能力として身に付けるように図る。これらの授業や機会を系統的に活用することで、実践型の企画・マネジメント能力等に秀でた女性を養成する。</p> <p>【評価方法の改善】 この学習・研究の展開から従来の修士論文とは異なるタイプの成果が出てきた場合、それを修了研究の一部、あるいはそれに替わるものとして認め、修了認定における評価対象とする。</p> <p>【博士後期課程】 社会生活環境学専攻は、研究者及び高度専門職業人の養成を目的としており、上記プログラムを経て進学した学生について、より高度な実践的能力を開発する。社会のニーズに直結する実践的研究課題を追求する研究者や、専門知識を背景に組織を指揮・運営する女性リーダーをめざすよう促す。</p> <p>このように、現地実習、フィールドワーク、インターンシップ、外部講師を招いてのキャリア形成科目、及び住居・住環境設計演習などにより、専門応用能力、課題発見・解決能力、総合的判断力、の伸長へとつながる、受動型から能動型へと変貌を促す女性高度専門職業人育成プログラムを構築する。とりわけ女子大学という教育環境を活かし、実践的課題を志向する女性の能力・個性をのびのびと発展させ、本教育プログラムにおいてその個の力を社会的貢献に資する段階へと高めたい。</p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

# 女性の高度な職業能力を開発する 実践的教育概念図



<採択理由>

大学院教育の実質化については、「学際性の推進」、「専門性の高度化」、「個性化の確立」、「国際感覚の涵養」を柱に、専門応用力、企画・マネジメント能力を修得させることを目的として、教員組織やファカルティ・ディベロップメントの実施体制、自己点検・評価体制が整備されていること、学生に対する修学上の支援が積極的に行われていることなどが、高く評価できる。

教育プログラムについては、「魅力ある大学院教育」イニシアティブの取組を継承し発展させるものとなっており、本教育プログラムでは女性高度職業人の育成を強化するため、既設の科目群の再編に加え、「実践基礎科目群」を開設し、「地域・文化資源コンテンツ制作実習」等の学生の自主的な企画研究又は地域貢献に関わる調査研究を展開する計画となっており、従来の実績もあり、その実現性、実効性が期待できる。また、本教育プログラムの大学全体の中での位置付けが明確であり、支援期間終了後の大学による自主的・恒常的展開も期待できる。ただし、今後カリキュラムを大学院生のキャリア形成につなげるための具体的方策を明確にすることが必要である。